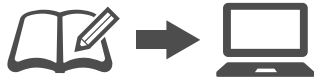


* Bugenhagen(ブーゲンハーゲン) というタイトルは？ ルターへの協力者で、宗教改革を推進した人物から名付けました。

文献管理ツール



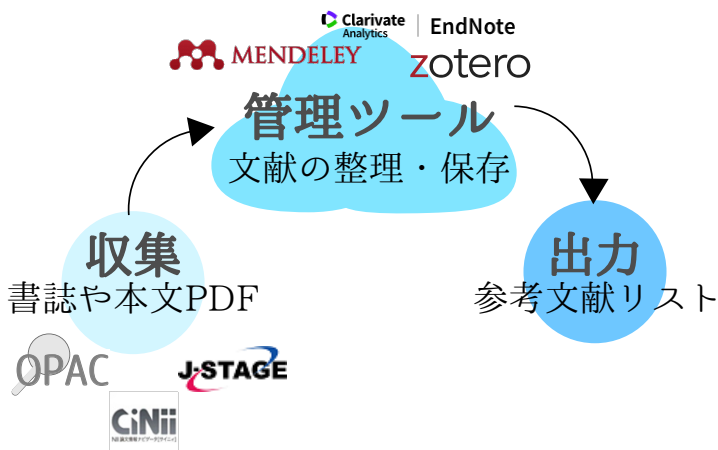
論文を書く際、集めた資料をどうやって管理していますか？ノートに書き留めたり、ExcelやWordで管理していませんか？いざ参考文献リストを作成しようとして、出版年が抜けていてもう一度確認して・・・そんなことを繰り返している方にこそ使ってほしい文献管理ツール。今回は便利な文献管理ツールを紹介します。

▶ 文献管理ツールとは

文献管理ツールは、本、雑誌記事、論文の書誌情報や文献にすぐにアクセスできるようにPDFやURLを保存する機能を基本として、フォルダ分けや参考文献リストの作成などの機能を持ったWebサービスやソフトのこと。ほかにもグループを作成して共有する等、ツールによって様々な使い方ができます。詳しい使い方は各ウェブサイトをご覧ください。有料のものから無料のものまでたくさんありますので、機能や容量など自分にあったものを選び利用してください。ここでは、3つの文献管理ツールを紹介します。

▶ 文献管理ツールを活用する

基本的な使い方は、①アカウントを作成する。②ソフトや、必要な拡張子等をダウンロードする。③使い始める。という簡単なものです。この後紹介する3つは無料ですので気軽に使ってみてください。使いやすい文献管理ツールを見つけたら、友達に教えたり、図書館の職員にもぜひシェアしてくださいね！



▶ EndNote Online (basic)の基本情報



- 無料のウェブサービス
- 50,000件のレコード、2GBまでの添付ファイルが保存可能
- 無料アプリ EndNote for iOSを使用し、iPad・iPhoneから文献情報の表示・編集・整理・共有が可能
- 引用文献のスタイル約20種類（編集不可）
- EndNote Import/PubMed(NLM)/Refman RIS/WorldCat(OCLA)でインポート可能

<https://www.myendnoteweb.com/EndNoteWeb.html>

▶ Mendeleyの基本情報



- 無料のウェブサービス、デスクトップ版もある
- 2GBのディスク容量
- 約7,000種類以上の引用スタイル（編集可能）
- BibTeX/XML/RIS形式のファイルをインポート可能

<http://www.Mendeley.com>

▶ Zoteroの基本情報



- 無料のソフト
- 300MBの容量
- 引用スタイル8,100以上（編集可能）
- BibTeX/RIS/Zotero RDFなどインポート可能

<https://www.zotero.org/>

▶ 活用例 ① 書誌を収集

論文執筆時だけでなく、日頃から読んだ本の記録としても活躍します。図書館では貸出履歴を見ることができませんので、図書館で借りた資料一覧を作成してみましょう。

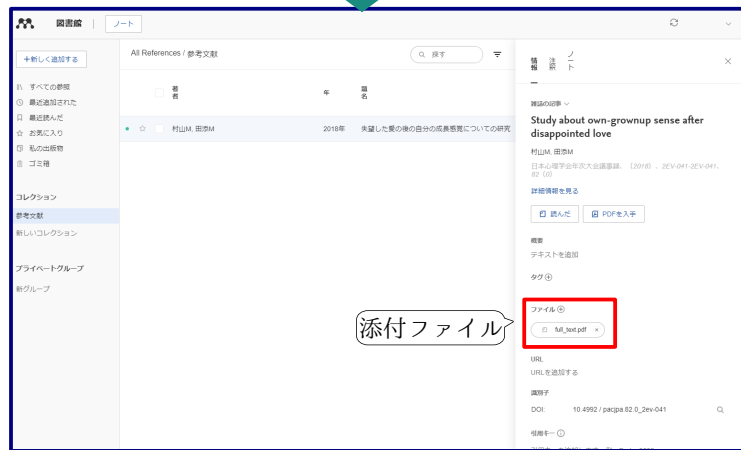
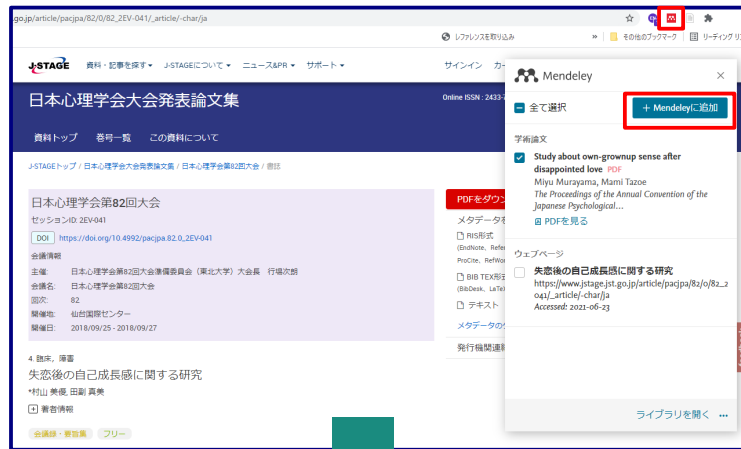
zoteroにOPACの書誌をインポートする例

① 図書館のOPACから RIS形式で書誌をダウンロード

② Zoteroへインポート
題名、著者名、出版者、出版年の他 ISBNやURLも保存されます。

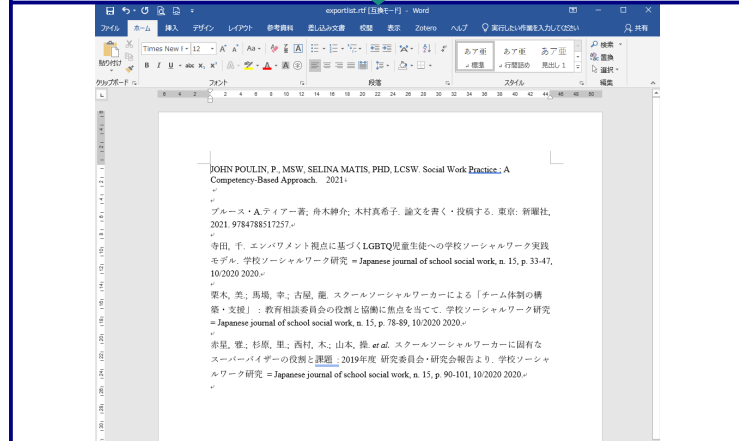
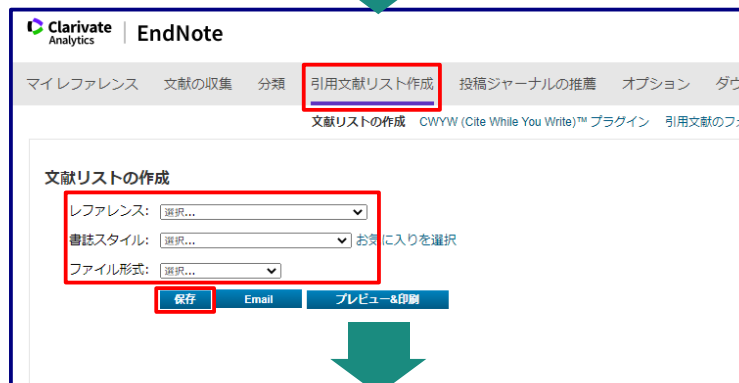
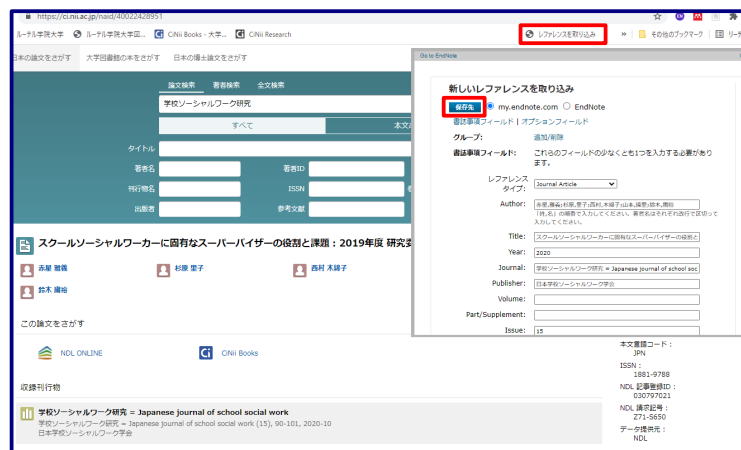
▶活用例 ②本文PDFを保存

本文PDFが公開されている文献は添付ファイルとして保存することもできます。例えばMendeleyの場合、予めWeb Importerをインストールしブラウザのアイコンをクリックします。[+Mendeleyに追加]をクリックすると、PDFファイルが添付された書誌を取り込むことができます。



▶活用例 ③参考文献リストを出力

使用した文献の一覧を参考文献リストとして、出力することができます。例えばEndNoteの場合、[レファレンス取り込み]などで書誌を収集し、[引用文献リスト作成]でレファレンスグループ、書誌スタイル、ファイル形式を指定し[保存]をクリックします。



文献リストの書誌スタイルを編集できる文献管理ツールもあります。今回紹介した中ではMendeley、Zoteroが編集可能ですので、よく利用する書誌スタイルを保存しておくると便利です。EndNoteとZoteroはWordのメニューバー（リボン）から文献リストを追加できます。



その他にも様々な機能がありますので、実際に使用して自分に合ったツールを探してください。

編集後記：前回の〈本の探し方/論文の探し方〉に引き続き、レポートや卒論・修論・博論執筆時に役立つ文献管理ツールの紹介をしました。3・4年生や院生は勿論、1・2年生も、“まだ早い”と思わず、日頃読んだ本の記録としてもぜひ活用してみてください。（松田）